

上田市地域づくり人材育成講座 2019 第 2 回

「行政と市民と若者が手を取る防災を考える」報告



前川ゼミ生の学生による発表の様子

【1】 講座概要

<概要>

上田市地域づくり人材育成講座 2019

第2回 「行政と市民と若者が手を取る防災を考える」

主催：上田市／共催：長野大学

日時：11/22（金）14:00~16:00

会場：長野大学 4-104 教室

<タイムテーブル>

14:00 本日の講座のねらい

前川道博（長野大学企業情報学部教授）

14:15 住民と学生でマップづくり 対談：前川×春原

春原秀夫（西部地域まちづくりの会 自然・生活環境部部会長）

14:25 学生が考える住民自治と防災、在住地域の紹介

巻渕優也、樋沢舜、仲間光輝（長野大学前川ゼミ学生）

14:40 上田市の防災政策

笠井満（上田市危機管理防災担当主査）

伊藤正道（上田市市民参加・協働推進課担当係長）

15:00 休憩

15:05 グループワークと意見交換

15:50 まとめ 前川道博

16:00 終了

【2】 講座報告

第2回講座では、現在の状況を踏まえた上で「行政と市民と若者が手を取り防災を考える」というテーマで参加者が3つの立場で発表や意見交換を行った。

最初に、講座企画者である前川先生から講座のねらいについての話があった。第2回講座は行政と市民と学生が防災を考えることがテーマである。西部地域まちづくりの会春原秀夫さん（自然・生活環境部部会長）をゲストに迎え、前川先生との簡単なトークセッションが持たれた。西部地域で取り組んでいるデジタルマップづくりは、前川ゼミの学生も手伝って進めている。「マップづくりにおいて部会の高齢世代は、地域の特徴や歴史等を若者に伝えていく。デジタル技術等不得意とするところは若者から学んでいる」とそれぞれの立場で協力して進めている西部地域のプロジェクトの特徴が紹介された。



トークセッション 西部地域マップづくりを報告する春原さん

若者の視点からの防災として、前川ゼミ生3人が「学生が考える住民自治と防災」をテーマに発表した。台風19号による地域の被害を踏まえ、学生からは上田市の防災メールによる情報取得の手段の重要性、SNSの活用事例としてツイッターアカウント「長野県防災」の紹介、将来的な若者向けアプリの構想等の話題提供をした。世代を超えた災害時の情報共有のあり方の参考にしていただいた。

次に、行政からの話題提供として上田市役所危機管理防災課の方から上田市の防災対策について発表があった。災害対策の基本として「自助・共助・公助」の協力、連携が不可欠であること、また行政の対策にも限界があるから、住民自治組織や自主防災組織等を通じて地域住民同士でつながりを持つことが一番の防災につながるとの話があった。



上田市からの行政による防災対策の報告

後半は、第2回のテーマ「行政と市民と若者が手を取り防災を考える」をお題にグループワークを行った。あるグループでは、山間部の地域では「若者が少なく役員の成り手不足が深刻で災害対策に課題である」といった意見、街中の地域では、「学生のアパートがあるが自治会に所属しないため災害時の対応ができない恐れがある」といった意見が出た。30分弱という短い時間ではあまり意見はまとめきれなかった。「地域によって問題が異なる」ことが見えたことは収穫であった。



各地域の現状を踏まえた意見交換

今回の講座を通じて共有できたこととしては、現在の自治組織において、若い世代の意見や協力がより一層求められること、また、そういった環境ができれば自治組織から地域を変えることができるのではないかとということである。また、各組織においても、若者など違った目線や世代で考えた交流や防災対策が進めばよくなるのではないかと考える。

【3】アンケート集計結果（ご意見ご要望欄を一部抜粋）

- ・分析とそれへの対策・方針（方向）はもっと具体的に広範囲に材料を集める必要がある。要支援者・高齢者への対応を行政（社協）とともに考えたい。（個人情報保護法の正しい理解を含めて）
- ・自治体についての若者のもっと具体的な意見を知りたい。
- ・グループワークの討議内容はもっと具体的に提起したほうが論点は煮詰まったように思う。
- ・学生と協働していくことは今後大切にしたい。

（報告者 樋沢 舜 長野大学前川ゼミ4年生）